

食品新聞

発行所 食品新聞社
http://www.shokuhin.net/
大阪府北区西天満5-10-17
電話 06(6361)4972P
東京 都府中央区大船1-1-8
電話 03(3552)3756-4031
名古屋 市中区丸の内2-10-11
電話 052(221)5391P
食品新聞社 2020
THE JAPAN FOOD NEWS
創刊 1947年

味の素 「食と健康の課題解決企業」へ 減塩、勝ち飯をグローバル展開

味の素の西井孝明社長は19日、味の素グループの2030年の目標と「2020-2025中期経営計画」を発表した。経営全体を見直し、新経営戦略をスタートさせる。

2030年に向けて「食と健康の課題解決企業」に生まれかわり、「アミノ酸のはたらきで、世界の健康寿命を延ばすことに貢献する。」

組織改革では、これまでの3事業をグローバル展開は食品、アミノ酸、ヘルスケアを1つの課題解決力を海外にも生かす。これに「協働」を推進していき、2022年「フェーズ1」の構造改革において、具体的には食品の事業部（2）の構造改革において、体制を4月にグローバルに再編する。23-25年「フェーズ2」は再成長として、これにより「アミノ酸」は再成長として、グローバル市場での成長を加速させる。また、アミノ酸の調味料、米、重点事業の拡大により「加工食品、冷凍食品」を向上を目指す。

食品界にも波紋



避けられない外食の影響

新型コロナウイルスの日本国内での感染を受けて、食品業界にも徐々に波紋が広がっている。食品企業の中には社員に向けて手洗いやマスク着用など改めて注意喚起、休日の不要不急の外出自粛を求めたり、人混み感染を避けるため、ワークや在宅勤務、時差通勤を推奨、出張を自粛する会社も出ており、外回りの営業社員にはマスクの切れが懸念されている。

新型コロナウイルスの日本国内での感染を受けて、食品業界にも徐々に波紋が広がっている。食品企業の中には社員に向けて手洗いやマスク着用など改めて注意喚起、休日の不要不急の外出自粛を求めたり、人混み感染を避けるため、ワークや在宅勤務、時差通勤を推奨、出張を自粛する会社も出ており、外回りの営業社員にはマスクの切れが懸念されている。

加工用トマト生産で業務連携

生活クラブ事業連合生活クラブ連合会、生活クラブ連合会、はごろもエール、丸エビ倶楽部、コトコト、日本デルモンテ加工用トマト生産において、おいしく簡便性を重んじて協力する「加工用」を結びつけた。

生活クラブ事業連合生活クラブ連合会、生活クラブ連合会、はごろもエール、丸エビ倶楽部、コトコト、日本デルモンテ加工用トマト生産において、おいしく簡便性を重んじて協力する「加工用」を結びつけた。



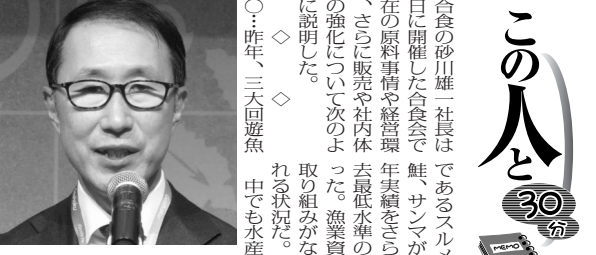
加工用トマトに関する業務連携協定

生活クラブ連合会、はごろもエール、丸エビ倶楽部、コトコト、日本デルモンテ加工用トマト生産において、おいしく簡便性を重んじて協力する「加工用」を結びつけた。

引き続き外出を控える人が増えることが予想され、感染拡大を防ぐため、消費への影響は避けられない。外食を避ける必要があり、内食や家庭食の需要が高まることを予測する。

引き続き外出を控える人が増えることが予想され、感染拡大を防ぐため、消費への影響は避けられない。外食を避ける必要があり、内食や家庭食の需要が高まることを予測する。

生活クラブ連合会、はごろもエール、丸エビ倶楽部、コトコト、日本デルモンテ加工用トマト生産において、おいしく簡便性を重んじて協力する「加工用」を結びつけた。



この人と30年

合食の砂川雄一社長は、2017年に合食で、鮭、サンマが主力で、現在は原料事情や経営環境、さらには販売や社内体制の強化について次のように語った。漁業資源の確保がなされる一層、魚種が増える状況にある。

新産地・魚種開発で安定供給

かねへい食品・九州合食を統合

かねへい食品・九州合食を統合

かねへい食品・九州合食を統合

かねへい食品・九州合食を統合

肴で、酒はうまくなる。

K&K 缶つま

10th Anniversary Since 2010

おつまみ缶詰 No.1

※出典：富士経済「2019年食品マーケティング便覧」
おつまみ缶詰・2017年